

石川県七尾市を拠点とする地域プラットフォーム『ななおSDGsスイッチ』は、環境省の支援を受け、地域循環共生圏として最も取り組みが進んでいる団体の一つである。プラットフォームフォーム事業では、地域の方々に改めて里山里海を地域の魅力に感じてもらうよう、生物種を判別するアプリを提供する企業や七尾市と連携して生物多様性環境学習イベントを実施した。親子で外遊びをする機会を提供し、教育という点で子どもに対

された。同プラットフォームは、七尾市をSDGs未来都市とすることを活動目標の一つとして創設され、市民教育等に取り組みんできた。地域住民の巻き込みにおいてはSDGsをキーワードとして有効に活用してきた。例えば、SDGsを能登七尾の視点で学ぶことで

# 七尾を拠点にした市民教育

## 地域循環共生圏の体現(3)

う七尾創業応援カルテットを母体に構成員を拡大し、地域住民を巻き込んだの社会課題・地域課題の解決を図ることを目的として組織

企画・運営し、市民が興味深いと感じることがSDGsの達成につながることを共有した。中高生から大人まで幅広い層をターゲット

とした事業と前述の子どもをメインターゲットにした事業の両者を実施することで多数の市民参加を得ることに成功している。そして同プラットフォームの事業はシビックプライドの醸成にも寄与している。

は、地域住民や他の地域企業等と共に課題解決に取り組む仲間としての役割、すなわち企業のCSRを超えCSVによる社会的価値と経済的価値を創出していく姿勢である。同プラットフォームの中心メンバーの1

人である、のと共栄信用金庫入口翔氏は「信用金庫は地域を見捨てることは絶対にしてはいけない」と話し、域内企業に対しても同様の意識を醸成したいとの期待を示す。

地域循環共生圏創出においては、意欲がある者同士を結び付ける事務局も必要となるが、地域ビジョンの実現のためには地域内の主体性を持った人材が必要不可欠であり、そのような姿勢を持った地域内の人々が事業を提案・共有することがとりわけ重要である。なお本稿では、令和6年前の取り組みと成果を紹介した。一日も早い復旧と復興、同団体の活動再開を心より祈念している。

(毎週木曜日に掲載)



竹内 瑞希(たけうち・みずき) 政策研究事業本部研究開発第1部(名古屋) 研究員

こうした取り組みが後押しとなり、昨年度七尾市はSDGs未来都市に選定された。七尾市SDGs未来都市計画には同プラットフォームが関与予定の取り組みも記載され、今後同市と共に取り組みを実施していく予定である。

地域循環共生圏において域内企業に期待されること

